

Efinity

A Case Study

Efinity社は、米国と英国に拠点を持つソフトウェアコンサルタント会社です。彼らは20以上の保険商品ラインの見積り及び契約システムを提供しています。

見積り及び契約システムは、保険会社が価格設定段階（見積り）から補償範囲が整う（契約締結）まで見込み顧客を獲得するのに役立ちます。Efinity社は20年以上にわたってシステムを改良してきました。



「Efinity保険システム」は、

年間**160万**
件の見積り

と

20万

件以上の保険契約を
処理します

Efinity社の保険システムには、オンライン保険事業を運営するために必要なものがすべて揃っています。そのソフトウェアは、即時の見積りを提供し、保険証券の保険料を計算し、そして販売および管理情報のための構成要素を持っています。更に、Efinity社は、自身のソフトウェアを使用しての保険仲介業務、Leadenhall引受けを行っています。そのため、彼らは、ソフトウェア及びサービスプロバイダー、そしてサービスの受給者としての経験を持っていることになります。

Efinity社は14カ国の顧客と取引しています。これは、システムに大量のデータがあることを意味します。システムは水も漏らさない万全なものでなければなりません。最近のデータ侵害に照らして、Efinity社は顧客からコンプライアンスの質問を受け続けました：「SOC 2認証を受けましたか？」

SOC 2認証は、基本的に監査報告書です。あなたが監査完了を受けたとき、それはあなたが良いデータガバナンスを持っているという証拠となります。しかし、インフラストラクチャの定期的な脆弱性スキャンや最新のソフトウェアによるシステムの最新状態の維持など、従うべき事項が多くあるため、多くの作業が必要です。

この認証を受け、彼らの優れたガバナンスを顧客に証明するために、Efinity社は大きな問題に対する解決策を見つける必要があることを認識していました。それらはアプリケーションレベルでクラスタを使用しますが、それらのゲートウェイ及びデータベースノードはクラスタ化できません。更に、それらはCentOS上で動いており、月に2、3回の重要なカーネルアップデートがあります。

SOC 2認証を取得するには、Efinity社はカーネルアップデートが出たらすぐに、それをインストールする必要があります。これは、再起動による、顧客にとってのダウンタイムを意味します。

Efinity社は、Linuxカーネルをリブートせずにアップデートする方法が思い浮かばず、更に、システム管理作業に投資するための帯域幅も実際には持っていませんでした。でも、彼らのサーバ群を準拠させることを強く望みました。

そこでEfinity社は解決のためにグーグル検索を行ない、KernelCareを探し当てました。彼らはKernelCareをインストールし、テスト段階が成功した後、運用サーバにその機能を展開しました。

12か月以上経っても、Efinity者はSOC 2に完全に準拠しています。

Zombieload及びSpectreのLinux脆弱性が出現したときは、KernelCareをインストールしてあったことで、膨大な手間を省くことができました。

現在の技術環境では、セキュリティが最も重要です。顧客は、自分のデータを与える会社を信頼する必要があります。信頼に足る会社でない場合は、他社を選択することになります。適切に監査されたことで、Efinity社はKernelCareを採用することを余儀なくされましたが、これにより、完全に準拠することができただけでなく、彼らのデータが信頼できることを顧客に証明できました。



「我々はそれをテストした、しかし正直に言うと、それはそれほど興奮していなかった - それは 'ただうまくいった' だけだった。」



Andrzej Talarek氏
Efinity社 Java開発者



リブート無しの自動で、 Linuxカーネルのセキュリ ティアップデート

 www.kernelcare.com

KernelCare

KernelCareに関するより詳細な情報や無料お試しについては、
日本国内正規代理店 GDEPソリューションズ株式会社 03-5802-7050 に
電話をするか、kcsales@gdep-sol.co.jpに電子メールを送って下さい。